

■「司令塔、夏に鍛える－1部6校のQBたち」④

「ロングパスも思い切り」

外崎 智文（帯広畜産大、3年）

8月6日午前8時15分。帯広市稲田町の帯広畜産大学グラウンドで練習をしていたカウボーイズの選手とスタッフ28人が練習を中断し、円陣を組んで黙祷を始めた。78年前、広島に原爆が投下された時刻に合わせ、犠牲者の冥福を祈った。「広島出身の選手が呼びかけました」と西龍一郎主将（4年）。スポーツを楽しめる平和の大切さをかみしめた時間でもあった。練習が再開されると、QB外崎智文（3年）とバックス陣はハンドオフの練習へ。RBの動きに、外崎から「いいね」の声が飛ぶ。ショートパスに移った。スリークオーター気味のフォームから素早い球を次々と投げる外崎が「今のボールは体の前で取りたいね」と若手レシーバーにハッパをかけた。

大野農業高ではバレーボール部だった外崎だが、新型コロナウイルスの影響で3年生の時に大会に出場できなかった。不完全燃焼のまま入学した大学で出会ったのがアメフト。札幌学院大でプレーしていた高校の先輩の薦めもあった。「ボールの投げ方が良い」と2年生からQBに抜擢され、昨春のオープン戦から先発した。北海学園大との初陣は痛恨のインターセプトで無得点に終わった。秋の道学生選手権は新型コロナウイルスで棄権1試合、不戦勝1試合を含む2勝3敗。実戦3試合でリーグ3位の389ヤードを投げ、6TD



Dパスを決めたが「全然満足できていない」と振り返る。一番悔しがるのが7個のインターセプトだ。「手探りの1年目だったけれど、それを言い訳にしたくない」と負けず嫌いをむき出しにする。

飛躍を期すQB2年目の今季。パスの速度と飛距離を増すために筋肉アップで体重を5キロ増やし、171センチ、83キロの体を仕上げた。6月の釧路公立大とのオープン戦では惜敗したが2TDパスを決め、北海学園大、釧路公立大との合同練習でも手ごたえをつかんだ。「今年は秋季リーグで優勝が目標」と宣言し、「伝統の強いラインでランを出し、若手レシーバーも成長している。ロングパスも思い切り投げたい」と勝利の青写真を描く。「リーグ戦で5試合するのは初めて。わくわくしている」と目を輝かせた。